

図書館の本だな

～5・6年生 おすすめの本のリスト 2021～

ぶりっかすの神さま

岡田 淳 作・絵 偕成社 913-オ

くがつ ひ てんこう はじめ たんにん せんせい よねんいちくみ きょうしつ
九月のある日、転校してきた 始 は担任の先生につられて、四年一組の教室にやってきました。ひとことあいさつをしようとしたそのとき、とんでもないものが見えました。すきとおった二十センチくらいのおお ちい さなつばさがある おとこ くうちゅう ぎ
は 始 と目があうと、ぎくっとしてから、きえてしまいました。

希望の図書館

リサ・クライン・ランサム 作 松浦 直美 訳

ポプラ社 933-ク

ふるさとのアラバマからシカゴにひっこ越してきたラングストンは、クラスメートからいやがらせをうけ、いえ し かあ おも だ ひ ほうかご
にだ 逃げ出したラングストンは、道をつねるために図書館に立ち寄りしました。本棚
に並ぶ本を見るうちに、自分とおなじ名前が書かれた本を見つけます。

古道具ほんなら堂

楠 章子 作 毎日新聞社 913-ク

ある日曜日、にちようび ゆうこ だい
ある日曜日、優子は大きなおばあちゃんのために、まめだのおっちゃんのせつけんを探しに、ふるどうぐや
のほんなら堂をたずねました。店主の橙花さんはしらがおかっぱで、ちい
さくてまるいめがねをかけ、だいたい色のきものをきたきむずかしそうなおばあさんです。ほんなら堂
には店さきにまでがらくたのような道具がおかれています。その道具は、不思議な力を秘めているようです。

ビーバー族のしるし

エリザベス・ジョージ・スピア 著 こだま ともこ 訳

あすなろ書房 933-ス

白人の少年マットは新しい居住区の丸太小屋にひとり残って、父さんの帰りを待っていました。ある日、ミツバチに襲われたマットはインディアンの老人と孫に助けられ、孫の少年に文字の読み方を教えることになります。インディアンの少年から森で生きる知恵を学び、一緒に過ごしているうちに2人はかたい絆でむすばれていきました。

点子ちゃんとアントン

エーリヒ・ケストナー 作 池田 香代子 訳

岩波書店 943-ケ

点子ちゃんの父さんはステッキ工場の社長です。お金をどっさりもうけるけれど、そのかわり、めっぼういそがしく、母さんもおでかけばかりして、点子ちゃんをかまってくれません。ある日、点子ちゃんの養育係のアンダハトさんは、婚約者に点子ちゃんの家の見取り図を持ってくるように言われます。アンダハトさんが書いた見取り図を盗み見た点子ちゃんは、それがなんなのか、友だちのアントンならわかるだろうと考えます。

三つのまほうのおくりもの

ジェイムズ・リオードン 文 エロール・ル・カイン 絵 中川 千尋 訳 ほるぷ出版 E-ル

むかしロシアの村に、かねもちのにいさんのイワンと、びんぼうなおとうとのイワンがいました。びんぼうイワンは、おなかをすかせたこどもたちのために、かねもちイワンからおわん一ぱいの小麦粉をかります。ただし、百ばいにしてかえすことをやくそくして。ところがつよい風がふいてきて、小麦粉をふきとばしてしまいました。おこったびんぼうイワンは風をおいかけていきました。そして、たべたいものがなんでもでてくる、まほうのテーブルかけを風からもらいました。

富士山に のぼる

石川 直樹 著 アリス館 E-イ

日本でいちばん高い山は富士山だ。ちかづいていくと、富士山の姿は、かわっていく。こおってかたくなっている雪の上を、アイゼンというがった鉄のつめをつけて歩く。日暮れもちかづき今夜は富士山のうでで眠るんだ。とおくから見てみんながしているつमोरの富士山。でも、のぼってみると、たくさんのしらないことや新しい世界にであうことができる。

魔法のオレンジの木

ダイアン・ウォルクスタイン 採話 清水 真砂子 訳

岩波書店 933-マ

腹はらをすかせたむすめは、性しょう悪わるなママ母ははのオレンジを食たべてしまいました。こわくなってにげだしたむすめは、生うみの親おやの墓はかの前まえで助たすけてくださいと泣ないてたのみました。つぎの朝あさ、むすめが墓はかの前まえで目めをさますと、スカートからオレンジのたねがころがりおちます。土つちの中なかにもぐりこんだたねは、緑みどりのはっぱがのび、むすめの歌うたにあわせて大きなオレンジの木おおききになりました。

動物たちが教えてくれる海の中のくらし

佐藤 克文 文 木内 達朗 絵

福音館書店 481-サ

海うみの中なかでくらししている動物どうぶつたちは、どれほど深ふかく潜もぐり、どのくらいはやの速およさで泳およいでいるのでしょうか。人間にんげんは直ちよく接せつ観かん察さつすることができません。そこで研究けんきゆう者しやたちは、ひとさし指ゆびほどの記録計きろくけいや小こ型がたカメラを動物どうぶつたちにとりつける、バイオロギングというやり方かたで、アザラシやペンギンなど、さまざまうみな海うみの動物どうぶつのくらしを研究けんきゆうしていきます。

ぼくがゆびをぱちんとならして、 きみがおとなになるまえの詩集

齊藤 倫 著 福音館書店 911-サ

大人おとなのおじさんであるぼくのいえに、きみはときどきやってきます。ぼくは、きみのしつもんしにこたえるかわりに、ゆかのあちこちにつんである本ほんの山やまから、ぬきだした詩しをいっしょしよに読よみます。「おなかが、くうどうに、なるような、かんかく」「そういう、ことばに、ならないものが、詩しなんだよ」きょうも、きみとぼくのじかんがながれていきます。